専門研修プログラム名	下総精神医療センター精神科	専門研修プログラム
基幹施設名	独立行政法人国立病院機構下総精神医療センター	
プログラム統括責任者	院長　女屋　光基	

専門研修プログラムの概要	国立病院機構下総精神医療センターを研修基幹施設とし、国立病院機構千葉医療センター精神科、国立病院機構東京医療センター精神科、東京歯科大学市川総合病院精神科、千葉県こども病院精神科、高洲公園心療医院、慶應義塾大学病院、大泉病院、横浜市立市民病院、国立病院機構賀茂精神医療センターを連携病院とする本プログラムは、地域において精神医療をリードしてきた基幹病院が、それぞれ最も得意とする臨床領域の研修機会を提供し、今後の精神医療をリードする精神科専門医を養成することを目的とする。	
専門研修はどのようにおこなわれるのか	研修病院は、国立病院機構病院を中心に、私立大学病院、県立のこども病院、精神科クリニック、精神科専門病院、公立総合病院精神科であり、異なった機能をもち、それぞれ高い専門性と医療倫理に基づき、地域で発生する難治症例の治療に当たり、地域社会の信頼を得てきた。児童思春期から後期高齢者まで、あらゆるカテゴリーの精神障害に対して、外来から入院治療まで包括的かつ効率的な研修が可能である。急性期から慢性期、児童から老年期、任意入院 から措置入院、医療観察法に基づく入院など精神科特有である非自発的入院を経験し、３年間のプログラムの中で各施設をローテートすることによって 多彩な症例を経験することができる。	
専攻医の到達目標	修得すべき知識・技能・態度など	患者及び家族との面接、疾患の概要と病態、診断と治療計画、薬物・身体療法の基礎、リハビリテーション、心理社会的療法含む非薬物療法、精神保健福祉法　など
	各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得	週1回程度症例カンファレンスを行い、薬物療法を中心とした各種治療法を習得するとともに、各種検査法を上級医とともに実践し、独力で検査を計画し、診断能力を高める。また、地域で生活するために、各種専門職と相談しながら、社会生活に最適に適応させる知識・技能を習得する。
	学問的姿勢	経験した症例を基礎に院内の検討会で発表し、臨床研究として興味ある症例については、各種学術集会で発表し、精神医学的な研究者としての基礎を学ぶ。
	医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性	日本精神神経学会や関連学会の学術集会、各種研修会等に参加し、医療安全、感染管理、医療倫理等、医師として習得すべき態度等を履修する機会を設け、医師としての基本的診療能力を高める。
施設群による研修プログラムと地域医療についての考え方	年次毎の研修計画	１年目：基幹病院で精神療法の基礎を学ぶ。　２年目：連携病院でそれぞれの疾患が持つ特徴を把握した個別の対応を学ぶ。　３年目：指導医から自立し責任をもった医療を遂行する能力を学ぶ。　※なお、記載は例であって、専攻医の希望によりプログラムの変更は可能としている。
	研修施設群と研修プログラム	研修連携施設：①千葉医療センター　②東京医療センター　③東京歯科大学市川総合病院　④千葉県こども病院　⑤高洲公園診療医院　⑥慶應義塾大学病院　⑦大泉病院　⑧横浜市立市民病院　⑨賀茂精神医療センター
	地域医療について	心理社会的療法やリハビリテーション、訪問サービス等による地域移行支援を実践てきる。

専門研修の評価	３カ月ごとにカリキュラムに基づいたプログラムの進行状況を指導医と専攻医が確認しその後の研修方法を定める。また６カ月ごとには研修目標の達成度を研修施設の指導責任者と専攻医が評価し、フィードバックを行う。それら研修実績は記録簿で管理する。	
修了判定	３カ月ごとにカリキュラムに基づいたプログラムの進行状況を指導医と専攻医が確認しその後の研修方法を定める。また７カ月ごとには研修目標の達成度を研修施設の指導責任者と専攻医が評価し、フィードバックを行う。それら研修実績は記録簿で管理する。	
専門研修管理委員会	専門研修プログラム管理委員会の業務	研修プログラムの検討と修了判定
	専攻医の就業環境	基幹施設及び連携施設それぞれの施設で定める就業規則に基づく
	専門研修プログラムの改善	基幹施設と連携施設が共同で行う委員会においてプログラム内容について討議し、継続的な改良を実施し、次年度プログラムへの反映を行う。また、専攻医からの意見聴取の機会も設けている。
	専攻医の採用と修了	一次判定は書類選考とし、二次判定はプログラム統括責任者との面談を基本とする。
	研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件	専攻医と相談の上、プログラム統括責任者の判断に基づく
	研修に対するサイトビジット（訪問調査）	プログラム管理委員会が主導し、各施設における研修状況を評価する。
専門研修指導医 最大で10名までにしてください。主な情報として医師名、所属、役職を記述してください。	・下総精神医療センター　女屋　光基　（連携施設）・慶應義塾大学病院　内田裕之　・千葉医療センター　海宝美和子　・東京歯科大学市川総合病院　宗未来　・高洲公園診療医院　織田辰郎　・千葉県こども病院　安藤咲穂　・東京医療センター　新福正機　・大泉病院　冨田真幸　・横浜市立市民病院　志々田一宏　・賀茂精神医療センター山口博之	
Subspecialty領域との連続性	総合病院精神医学分野として救急センターに搬送された自殺企図患者の治療や、児童思春期、物質使用障害、てんかん、認知症、医療観察法病棟など、幅広い選択肢から専攻医の志向を考慮した研修が選択可能である。	